



北海道ファミリーハウス

— NPO法人 —

北海道

ファミリーハウス通信

2014年3月25日発行/No.13

発行: NPO法人北海道ファミリーハウス
責任者: 事務局長 大西 可奈
060-0807札幌市中央区北7条西6丁目
TEL(011)716-4161 FAX(011)716-4162

http://www3.snowman.ne.jp/~h-family/

ファミリーハウス運動を「ご存知でしょうか」

患者さんと家族を支える

■はじめに

NPO法人北海道ファミリーハウスは、二〇〇〇年十一月に小児がんや白血病などの重い病気の子供を持った両親に宿泊施設の情報を提供することを目的に、札幌市に事務所を開設しました。その運営は、個人・法人会員皆様の会費や諸団体からの寄付などによってボランティアが中心となって運営しています。

この資料は「ファミリーハウス運動」をご理解いただくためポイントをまとめたもので、ご一読いただければ幸いです。

■ファミリーハウス運動とは

ファミリーハウスのモデルは、一九七四年、ハンバーガーチェーンのマクドナルド社が世界第一号のハウスを米国のフィラデルフィアに造り、いまでは国境を越えて世界三〇カ国に三二五カ所(二〇二二年十月現在)の施設が設けられています。

小児がんなどの難病の治療は、長期間の入院と高度医療(骨髄移植や手術・放射線治療など)を受ける必要があります。



一方、患者の家族はビジネスホテルやアパートを確保するなど重い経済的・精神的負担を抱えることとなります。このような状況を改善する一方策としてファミリーハウスの運動が進められています。

■日本国内における運動の現状は

一九九一年国立がんセンター中央病院小児科に全国各地から入院していた子供の母親達が、アメリカのマクドナルドハウスの存在を知り、東京にも宿泊施設を・・・と訴え運動が始まりました。

九二年、血液のがんで亡くなられた息子さんの遺志を受け継がれたご両親が建てた「かんがる〜のおうち」やマンションの一室を提供していただいた「パイプの家」が誕生しました。

現在では、全国に多くの施設が病院やNPO、ボランティアなどによって運営されています。

■北海道ファミリーハウスの役割と運営

北海道ファミリーハウスの役割は、病院の施設だけでは応じきれない利用者のため、病院周辺で空室となっているオーナーさんとホテルのご協力を得て、ファミリーハウスとして活用させていただき、いまでは子供たちはもとより、一般の患者さんやご家族にも利用いただいております。この方式は「北海道方式」と呼ばれ全国的にも注目されています。

また、運動を支えていただいているのは、財政面では個人や企業の会員の皆様。日常の運動はボランティアの皆さんが中心となって運営しています。

第十四回ネットワーク会議

十一月二日～三日(沖縄県)
県立南部・こども医療センター



全国から多くの仲間が参加して開かれた会議

例年より気温の高い沖縄で、第十四回JHHH(日本ホスピタル・ホスピタリティ・ハウス・ネットワーク)がモノレール終点首里駅に近い県立南部・こども医療センターを開場に、全国から九十六名の参加を得て開催されました。

初日の十一月二日(土)は、受付の後、二班に分かれて「がじゅまるの家」

(十室)と医療センターの小児科施設を見学し、夕刻から場所を移し沖縄色豊かな交流会となり、福岡、横浜、京都、福島、新潟からの参加者と特に親しく交流でき、得るものが多く参考になりました。

翌日は、午前九時三十分から午後四時三十分まで行政、医療、県民(島民)、親の会の大きな輪(ゆいまーる)でできた「がじゅまるの家」が完成するまでの経緯、全国の新しいハウス、小児がん拠点病院の動向、「わが家」らしい雰囲気づくり、ハウス運営の重要点など、五つの分科会で討議を行い充実した内容となりました。

北海道でも借り上げ方式(現行)ではない独自の居室を備えたファミリーハウスの実現が望まれるところで

記 川原



ネットワーク会議に合わせ施設見学

裏面もご覧ください